

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	20	学校名	茨城県立水戸工業高等学校					課程	全日制			学校長名			久松 政信			
副校長名	平間 和雄					教頭名		平野 敬靖				事務（室）長名			加倉井 大晃			
教職員数	教諭	64	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手			17	事務職員	5	技術職員等	3	計	102
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	工業化学科			16	25	15	17	13	27			44	69	3				
	機械科			78	2	73	4	74	5			225	11	6				
	電気科			77	3	71	4	74	4			222	11	6				
	情報技術科			33	7	36	4	37	3			106	14	3				
	土木科			34	6	38	2	34	5			106	13	3				
	建築科			32	8	35	5	34	6			101	19	3				

2 目指す学校像

◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。

別紙様式1（高）

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー） ○学校経営計画表の「目指す学校像」等に対応	歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー） ○グランドデザインの「教育目標」に対応	(1) 望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、キャリア教育・職業教育及び教科学習を充実させる。 (2) 生涯学習の意義を明確に伝え、知・徳・体のバランスのとれた力を養う。 (3) 道德教育を重視し、基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー） ○各校の「スクールガイド」等に対応	【工業化学科】化学を基礎から学び、製造・研究開発・分析業務にあたる技術者を目指す意志のある生徒 【機械科】基礎知識や専門技術を身に付け、あらゆる分野に柔軟に対応できる視野の広い機械技術者を目指す意志のある生徒 【電気科】電気をつくる、届ける、利用するまでの基本となる知識と技術を幅広く学び、将来、社会で活躍できる電気技術者を目指す意志のある生徒 【情報技術科】プログラミングやネットワーク、マイコンを用いた制御および電気に関する学習を行い総合的なITエンジニアを目指す意志のある生徒 【土木科】土や水の力学的性質を知り、構造体をつくることを学び、最新の設備・機器を導入して、人々の生活に必要な施設（社会基盤、インフラ）を整備する視野の広い技術者を目指す意志のある生徒 【建築科】構造物を築き上げるために必要な知識や技術を学び、2級建築施工管理士補や2級建築士に合格できる知識や技能の習得を目指す意志のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・学習意欲が高く資格試験等に積極的に取り組む生徒群と学習意欲があまり高くない生徒群の二極化が見られる。 ・学習意識調査では、各クラス20～40%の生徒が「家庭学習をほとんどしない」と回答しており、学科によっても偏りがある。また、家庭学習の習慣を定着させるため導入したスタディサプリのアクティブ率が、前期は80%前後に対して後期20%前後と差が開いている。	・生徒一人一人の学習習慣及び学習到達度を把握した上で、各科・学年と連携し、より一層授業の工夫・改善を図る必要がある。 ・スタディサプリの利用率が、年間を通じて利用率が上がるよう、スタディサプリの内容を定期テストへ反映させていくことを考慮する必要がある。

別紙様式1（高）

進路指導	- 令和6年度の進路状況は、就職者が171名(55.0%)、進学者は139名(44.7%)であった。公務員には13名が合格し、就職内定率は年度内に100%に達した。 - また、4年制大学へは80名が進学し、国公立大学には9名が合格した。	- 個々の生徒の適性等を考慮し、企業選択のサポートを行っていく必要がある。 - 国公立大学への進学を希望する生徒に対応するための学習指導体制づくりを更に進めていく必要がある。
生活指導	- 定期的な頭髪服装検査により、ほとんどの生徒が改善されているが、一部の生徒の制服の着こなしについて課題がある。 - 自転車運転マナーに関する苦情があり、実際に自転車事故が数件発生している。 - 金銭の盗難による被害が起きている。 - 挨拶運動等の実施により挨拶をする生徒が増えている。	- 規範意識の向上を図るために、生徒の内面に訴える手立てを更に工夫する必要がある。 - 自転車運転マナー等の安全教育を徹底する必要がある。 - 自己の貴重品の管理について指導徹底するとともに、昼休みの巡回等により未然防止を図る必要がある。 - 更に元気な挨拶ができるよう環境を整える。
特別活動	- 生徒会が中心となりながら、文化祭を成功させることができた。一方でホームルーム活動や委員会活動において、生徒の主体的な活動が少ない。 - 活発に部活動が行われ、よい成績を収める部活動も多くある。加入率は約6割である。 - 各種ボランティアについて、希望者を募り参加しているが、その数は少ない。 - キャリア・パスポートの一貫した活用方法について、更に検討していく必要がある状況である。	- 各委員会について、生徒の主体的な活動を一層支援する必要がある。 - 部活動加入率が下降気味のため、魅力ある部活動づくりと加入促進のための手立てを図っていく必要がある。 - ボランティア活動への参加率を向上させるため、周知方法等の工夫・改善を図る必要がある。 - 生徒が目的意識を持ち、意欲ある学校生活を送るため、キャリア・パスポートの更なる活用を推進していく必要がある。
働き方改革	- ワーク・ライフ・バランスの考えが浸透しつつあるが、部活動顧問を中心に在校時間が長時間となっている教職員も一定数存在する。 - 時間外在校等時間は、「月平均時間：20時間01分」「月平均45時間超過者割合：9.6%」「月平均80時間超過者割合：0.2%」であった。（集計期間：令和6年4月～令和7年1月）	- 部活動指導員の積極的な参画を進めることや、指導法を工夫、共有することで、業務負担の軽減を行う必要がある。 - 時間外在校等時間の月45時間を超えている職員の割合は減少傾向にあるが、月45時間を超えている職員は固定化している傾向にあるため、定時退勤日、完全退勤時間を意識し、業務の精選と平準化を図る必要がある。

5 中期的目標

- 1 キャリア教育・職業教育の充実を図り、学習目的と計画を「見える化」することにより生徒の自主性を育み、学力・技術・技能の向上を目指す。
- 2 望ましい職業観・勤労観の育成を図り、創造性豊かなものづくりに対応できる工業人の育成を目指し、資格取得合格率の向上を目指す。
- 3 より高度な科学技術を学ぶための基礎となる普通科目・専門科目の学習の充実を図り、就職内定率と国公立大学合格者数の向上を目指す。
- 4 生涯学習としての特別活動の意義を明確に伝えるとともに、部活動の活性化を図ることにより、知・徳・体のバランスがとれた教育を目指す。
- 5 道徳心の向上や心の教育を重視し、基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。
- 6 学校の現状を踏まえ、教職員の仕事と生活のバランスを考慮した働き方改革の推進を図る。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
確かな学力の向上	(1) I C T機器を活用した主体的、対話的で深い学びができる質の高い授業づくりの推進 (2) 専門性向上と資格取得や検定合格を目指した支援の充実 (3) 生徒による授業評価（授業満足度）平均 3.5（昨年度 3.4）以上の実現
豊かな心の育成	(1) 水工生としての自覚と責任感を身に付けさせる生活指導の充実 (2) 豊かな人間性と社会性を身に付ける特別活動の充実 (3) 一人一人に寄り添う教育相談の体制と生徒支援の充実
進路指導の充実	(1) 自己実現に向けた進路行事の確保 (2) 一人一人の個性に寄り添った個別の進路指導・支援の充実 (3) キャリア・パスポートの活用の促進
地域に信頼される学校づくり	(1) 地域に信頼される学校を目指す広報活動の充実と学校公開の推進 (2) 地域社会・保護者と連携した一体感のある学校づくりの推進 (3) 情報発信の核となる学校ホームページ構成の適切な見直し
教職員の働き方改革	(1) 長時間労働の解消に向けた教職員在校等時間の詳細な把握・分析 (2) 校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 (3) 教職員の勤務時間の適正化の推進